ずいそう

私と囲碁

落合正利

私は囲碁が好きです。

「好きこそ物の上手なり」という言葉がありますが，何となくそれに当てはまるような気がします。今ではある程度の技量を身に付けたと自負しています。自負していると言っても自己満足の領域を出ていません。未だに3子も置いて対戦する上級者に出会います。そんな時はむらむらと闘志が沸き，絶対に負けないという決意で望みます。そんな向上心（負けず嫌いかな？）が今の私を支えてくれていると思っています。

■□□

私の碁との出会いは生れ故郷（愛知県足助町の片田舎）の碁盤からです。

物心ついた頃には既に碁盤と碁石が揃っていました。とは言う物の我が家では誰も碁を知りませんでした。碁盤は私の曾祖父が山にあった銀杏の木を切り出して自前で作ったようです。碁盤のマス目はそれなりの墨で画かれていて，見た目には遜色はありません。おまけに足が付いています。素人目にはなかなかの技巧を要するように思えます。碁石は蛤かどうかわかりませんが貝殻でできていました。残念ながら私が小学生の頃遊んでいて相当数の碁石を紛失してしまいました。

5人兄弟の末っ子に生れた私は兄たちの五目並べに参加して勝ったり負けたり一喜一憂していたことを覚えています。

誰も碁を知らなかったのに何故私が碁に興味を持ったのかは定かではありませんが，今思えば，たまに我が家に遊びに来た神戸の叔父の影響かと思われます。叔父は我が家にきては「碁盤があるのにどうしてこの家の者は碁をやらないのか」と盛んに話していました。そんな言葉につられて何も知らない私が叔父の相手をするようになったようです。何故か兄たちは叔父との相手を避けていたようです。年に一度か二度ほどしか会わない叔父とのつき合いで碁が上達するはずがありません。ただ私の心には囲碁に対する興味は沸いたようです。

高校，大学時代は碁との出会いはほとんどありませんでした。下宿のお父さん，おじいさんを相手に毎晩遊んでいたのは将棋でした。その関係で町内の実力者（将棋の）に紹介してもらい対戦した思い出があります。もちろんこてんぱんに負けました。でもいい思い出となっています。

□■□

本格的な囲碁との出会いは会社に入ってからです。

最初に配置された名古屋では，毎日誰かが碁盤を囲んで対戦していました。碁盤が一組しかないのに，やりたい人が5人もいました。昼休みは弁当の早食い競争です。早い者勝ちの対戦です。もちろん上司が強権を発すれば下端の私は遠慮せざるを得ません。そこでの最上級者との対戦では9子局であった記憶があります。その人とは今では互戦となっています。その後，東京，富山と転勤しましたが幸いにもいずれの配属先にも目標となる上級者がいて，碁敵となる相手にも不足しませんでした。幸運に恵まれた囲碁環境であったと感じています。

今では3人の子供がいますが，残念ながら誰も碁をしません。

最近，少年ジャンプに掲載された「ヒカルの碁」のおかげで漫画好きの末っ子の娘（中2）が「碁を教えて」と言ってきました。友達まで呼んで囲碁教室を開いたのですが，残念ながら碁を習得するには至りませんでした。碁はルールが少ないので説明するには簡単ですが，いつゲームが終わり，どちらが勝ったのかがなかなか理解できないようです。何よりも勝負の時間が長すぎて（九路盤にて挑戦してみましたがそれでもだめでした）飽きてしまうようです。もうあきらめました。

□□■

今は単身赴任で大阪にいますが，幸いにも近くに碁会所があり休日にはそこで楽しんでいます。

碁会所の顔ぶれをみるとほとんどが高齢者です。私より若い方がほとんど見あたりません。毎週日曜日のNHK「囲碁の時間」はほとんど欠かさず見ています。会社を退職した後も囲碁ができる環境であればと思っている今日この頃です。

――おちあい　まさとし　佐藤鉄工株式会社執行役員
西部営業部長，技術士――